ひのたにえん

2023年度
夏号

「つどえば」にこめた思い

ひのたに園　園長　齋藤誠一

2023年2月26日（日）マルキ印刷さんの建物をお借りして立ち上げた「つどえば」スタートしました。その日は、陶芸活動「アトリエ・セラミカ」に7人がつどって、表現活動を行いました。その翌日からは、内職作業もスタートし、今日まで双方の活動を継続しています。そこに行くと居場所があって安心できる。そんな場所をつくりたいと立ち上げたのが「つどえば」です。

「つどえば」を立ち上げた理由は大きく2つあります。

一つ目は、今から3年前にひのたに園開設50周年記念誌を作成した時のことです。いただいたご寄稿を拝見したり、開設当初の職員の座談会でのお話をお聞きする中で、いかにひのたに園が日野町の皆様に支えられてきたのかを知りました。その時に「日野町に恩返しがしたい。」と感じたからです。

二つ目に、ひのたに園から退所され、地域で暮らすようになった方々のアフターフォローをするようになって5年目になりますが、その支援の中で感じる孤立をなんとか解消したい。そう思ったからでした。

5月27日（土）子ども食堂「キッチンつどえば」を開催したとき、その思いが少しだけカタチになったと感じました。

当日は、ご高齢の方から小学校1年生のお子さままで、いろんな立場の人が集まり、食卓を囲みながら、あっという間に顔見知りになっていき、笑い声が各所から聞こえてきたのです。 大学生とひのたに園を退所した地域に住んでいる方がジェンガで遊ぶ様子。地域の方が、アトリエ・セラミカの作品を見ながら楽しそうにされている様子。「いつもはこんなに食べないのよ」とご高齢の親が食べる姿を嬉しそうに眺める地域の方。

これらの光景を見ながら、「食べ物がそこにあると、『食べる』という役割がついてきて、そこに自然と居場所ができるのかもしれないな。」と感じました。

「つどえば」をスタートしてまだ5カ月ですが、「広報ひの」の「まちの宝発見！」のコーナーで紹介いただきました。また、日野町が主催された「子ども食堂意見・情報交換会」に出席させていただき、これまで触れることの無かった実践を知ることが出来ました。今後の展開が楽しみで仕方がありません。

みなさん、ぜひ「つどえば」に遊びに来てください。

つどえば　ロゴ

「キッチンつどえば」はじめました！

日野祭りの本祭の5月3日に、新拠点「つどえば」がお披露目となりました。この日はお祭りも相まって、ご近所さんや多くの通りを行きかう人々にも立ち寄ってもらいながら、ドリンク片手に、にぎやかにワイワイと過ごすことができました。このお披露目をきっかけに、ひのたに園の利用者と職員はひのたにの高台から地域におりてきました。

5月27日のはじめてのみんな食堂「キッチンつどえば」のメニューは、トマトを隠し味に使った特製カレーライスとヨーグルトのルバームジャム添え。おいしい笑顔が、作る人の手応えになりました。これからは、地域の人やひのたに園で暮らす人、みんなが元気に過ごせる場となることを願っています。どなたでも気軽に「つどえる場」をめざして成長していきますので、どうぞよろしくお願いします（森嶋）

赤い羽根
福祉基金

着任職員紹介

①出身　②趣味、好きなもの
③ひのたに園で働くことへの思い

コワリック優華

①滋賀県を故郷だと思っています。
②趣味は琵琶湖での散歩です。
③ひのたに園に来て、皆さんが施設内で役割を持って活躍されている姿を見て、ひのたに園の良さを感じているところです。健康管理ももちろんですが、地域でのイキイキした生活への伴走ができたらといいなと思っています。

村上京子

①愛媛県（瀬戸内海に浮かぶ島育ち。海がキレイな島です。）
②旅行=食べること（現地の美味しい物を食べるのが好きです）
③大人の施設で働くのは初めてでモタモタした毎日です。その中でも日々、『救護施設』の大切さを学んでます。利用者が”安心した生活“ができる支援を目指して頑張りたいと思います。

増田桂子

①滋賀県
②今は手仕事を習っています
（パッチワーク、手毬など）
③さつき荘から利用者さんと一緒にきぬがさへ引っ越して、今年3月できぬがさでの仕事を終わりにしましたが、4月からひのたに園で働かせてもらうことになりました。あらゆる年齢層がおられる中での仕事ははじめてだったので、学ぶことも沢山あるのですが、まずは楽しく働きたいと思っています。どうぞよろしくお願いします

福井善博

①東近江市
②プラモデル作り、釣り
③10数年高齢者施設で働いてきました。ひのたに園で心機一転頑張りたいと思います。

福永なを美

①日野町
②柴犬のグッズ集め
③もともと高齢者施設で働いていて、今年度からひのたに園で働いています。利用者さんとのつながりを大切にしたいです。

「トラックドライバーはいい仕事や。」

山下義雪さん(68)

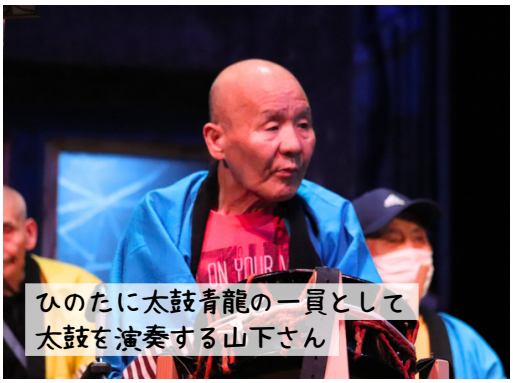
これまでの仕事に誇りを持っておられる山下さん、仕事の中での楽しみなどを教えていただきました。

>お仕事は何をされてたんですか？
20代は溶接。30代、40代の頃の10年はトラックドライバー。

>溶接はなぜはじめはったんですか?
好きやから。造船もやってた、タンカー船ね。船の中の部分で骨組みみたいなところ。溶接の免許も持っている。

>仕事中は火傷とかしなかったですか？
した。手の周りを火花でね。けど、病院にも行かんかった。痛かったけど、我慢。

>それは驚きですね。溶接の仕事やめたのは火傷が理由ではないんですか？
タンカー船がもうできんくなったんや。人間がやる部分を機械がやってくれるようになった。他の人らもやめたね。まぁ仕方ないなって思ったね。


ひのたに太鼓青龍の一員として
太鼓を演奏する山下さん

>ドライバーでの仕事ではどんなトラックに乗ってたんですか？
4トンと10トンのトラック、その2つがメインやった。全国回ってた。北海道とか沖縄にも。

>トラックドライバーの仕事の楽しみはどこですか？
よそ行くから、飯食うのも楽しみやね。特に信州長野と西宮。信州のホルモンはうまかった。西宮はカレー。まぁどこのも美味しいけど。

>トラックドライバーは自分にハマってましたか？
おうてたね！楽しかった。人間関係もよかった。上の人も優しかった。

>ドライバー不足が昨今よく言われてますが、山下さんはどう思いますか？
このままであってくれれば。トラックドライバーはいい仕事や。（聞き手・文　北岸）

人生いろいろ

「人の温かみとか、そういうのは大切にせなあかんなと思うわね。そういうふうになったんかな。」

折口朗さん(64)

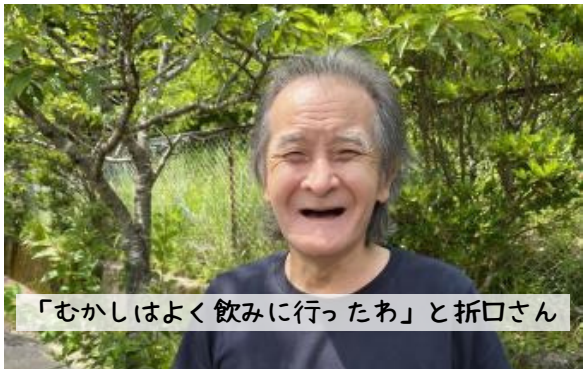
いつも穏やかな折口さんに、これまでのお仕事のこと、いろいろとお聞きしました。

社会に最初に出たんは鉄工所関係でね。柱とか、鉄骨の…例えば柱の中にH鋼って、H型の柱があるんですよ、骨組みの建物の基礎になるような。大きなハウジングの下請けみたいな感じでね、そこは5年ほど勤めたね。その後は、ようは飽きた言うか、鉄工所とは全然違う飲食業の方を。喫茶店とか居酒屋とかあと洋食の方を主にやったね。ポピュラーな居酒屋のメニューくらいやったら、ぱぱっと作れますよ。あと多国籍料理屋、ちょっとしたインド料理とか東南アジアの方の料理で。結構辛い料理もあったね。

>折口さん、辛い物お好きなんですか？
辛いのはダメ！作るの専門で。テレビで辛いメニューを時間内に食べるのとかあるやん。あんなん見てたら、もう見てるだけで汗かくから（笑）あそこまで辛くはない。もうちょっとあっさり系の、日本人にあうようなの作ってたわ。飲食関係は30年ほどいろいろやってましたね、料理つくんのは好きやったからね。その頃はバブルの全盛期で、景気もよかったからね。お客さんも多かったですよ。夜の11時くらいには仕事も終わって、それから飲みに行っても十分遊べた時代ですからね。朝まで飲んでそのまま仕事行ったりもしてましたからね、ほんま若かったね。それを楽しみに働いてたね。仕事、次の日休みやったらね、そのまま夜新幹線乗って、東京とかいって遊んで、次の日の夜帰ってきたりしてたね、東京はやっぱりレベルが違うもんね。だからそんなんでね、結婚も子供もおらんけどね、もう遊びまくってましたからね。

若い時は気にもせんかったけどね、この年になればね、人の温かみとか、そういうのは大切にせなあかんなと思うわね。そういうふうになったんかな、今もう65やからね。ひのたに園でもね、利用者でも助けられるとこは助けられた方がええと思うね。

（インタビュー中、親しい利用者さん（Sさん）が近づいてこられたので話を聞く）
>折口さんってどんな方ですか？
>Sさん：男前っすよ！
えらいほめるわな（笑）。ここ2ヶ月くらいや、顔は知ってたけど、話まではせんかったんや。野球の話とか割と好きやから、話すようになったね。だんだんと顔も覚えてくれはって、名前も覚えてくれはって。自分がわかってることは言ってあげるし、やりやすいようにやれば良いなと思うね、お互いに。（聞き手・文　田中）


「むかしはよく飲みに行ったわ」と折口さん

くらしをつなぐ

ひのたに園を退所し、地域で生活されている
寺澤さんに話をお聞きしました！

寺澤政光さん（50）
よく一緒に話をしていた後藤勢司さんとの１枚

＞寺澤さんって、今はどういうお仕事されてるんですか？
製造業の工場で掃除などメンテナンスの業務を担当してさせていただいてます。もうおかげさまで5年たちますかね。部署のリーダーさんもいろいろ手助けしてくれたり、いろいろ困りごとの相談にのってくれたり本当に助かってます。リーダーさんも感謝してくれて、反対にこっちがほんとにありがとうっていうところです。仕事させていただいてる立場ですから。

＞今の環境がいいって思えるのも、ここに入るまでの経験があるからですかね？
そうですね。路上生活やってましたから。いつ死んでもおかしくない、辛いと思いながら。その時も日雇いの仕事はしてて、でも1日2日とかだからもう行って辞めて、そんな程度しかできなかったんです。
で、NPOの人が声かけてくださって、社会福祉課さんへ1回相談しに行くかって一緒に連れてってもらって、その日にすぐにこちらに入所って感じですね。断ったらどうなるかの分岐点でした。断ってたら今の私なかったと思いますからね。

＞路上生活してた頃、どういうところが辛かったですか？
まずお金がない、寝るところもない、暑い寒い関係ない。今同じ草津だからこそ時々思い出すな。そこで8年過ごしてましたから。でも、本当にね、路上生活はずっと1人で孤独でしたから、それが1番つらかったです。助けてほしいっていう気持ちは何処かありましたけどね、だからと言って自分からSOS出すのも嫌で。そう思ったら今、もう全然1人じゃないよって思いますね。

＞今は一人暮らしをされてますけど、路上で生活してたころの孤独とは違いますか？
やっぱ全然違います。あっちの孤独はやっぱり人目もありますし外ですからね。しかも、何もできませんので。自宅の1人暮らしでも、全然違うじゃないですか。好きなことを、自由にできます。
もうちゃんとやれてるのひのたに園さんのおかげさまです。自分でもちょっと積極的になって変わったかなと思います。
（聞き手・文　北岸）

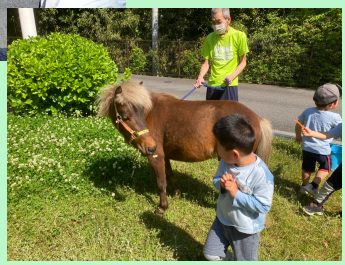
ひのたに音楽祭りを開催！

フィナーレの様子

5月21日（日）「ひのたに音楽祭り」を開催致しました。今回は「日野祭囃子方交流会」の皆さんとひのたに太鼓・青龍でお世話になっている青沼先生率いる「チーム青沼」の皆さんにお越し頂きました。先ずはチーム青沼の皆さんによる「大楽（おおら）」。迫力のある和太鼓演奏でスタート、青沼先生の大太鼓ソロ演奏や「DANJIRI」という曲を演奏して頂きました。続いて日野祭曳山囃子方交流会の皆さんには850年以上の歴史を持つ馬見岡綿向神社の例祭で湖東地方最大の春祭り「日野祭」を彩るお囃子「馬鹿囃子（ばかばやし）」「屋台（やたい）」「大間（おおま）」「法界坊（ほうかいぼう）」の4曲を演奏して頂きました。ひのたに太鼓・青龍も新曲「こきりこ節」を含む3曲を演奏しました。フィナーレは演奏者全員で日野祭囃子から馬鹿囃子を演奏させて頂きました。聞く人も演奏する人も楽しい時間となりました。（横川）

ティオくんがやってきた！

高島からミニチュアホースのティオ君が遊びに来てくれました！人参をあげたり、なでたり、間近で見たり、利用者の皆さんも職員も楽しい時間でした。皆さんいつも見られない表情をしておられ、笑顔がたくさん見られる1日になりました。
また会えるのをひのたに園一同心待ちにしています！（高田）



glow
社会福祉法人グロー
救護施設「ひのたに園」広報誌(2023年度夏号)
2023年7月発行
〒529-1601 滋賀県蒲生郡日野町松尾121
TEL 0748-52-0645　FAX 0748-53-2598